

第 8 期

札幌市廃棄物減量等推進審議会（第 10 回）

議 事 録

日 時：平成 29 年 12 月 12 日（火）午後 2 時開会
場 所：TKP ガーデンシティ札幌駅前 ホール 3C

1. 開 会

○福士会長 ただいまから、第8期札幌市廃棄物減量等推進審議会の第10回本会議を開催させていただきます。

本日は、師走の大変ご多忙の中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日の会議は15時30分ごろを終了予定としておりますので、ご協力をお願いいたします。

まず初めに、誠に残念で、皆さんを驚かせてしまうようなご報告となってしまいますけれども、実は、桑原副会長が10月2日にご逝去されました。最初に、そのことを謹んでお伝えさせていただきます。

今年6月に開催した前回の本会議の時は、大変お元気そうだったのですけれども、私が告別式に参ったときに、その後に入院して受けた手術の予後がおもわしくなく、ご回復につながらなかったと伺っております。

今は、桑原副会長の姿を偲んで、心からご冥福をお祈り申し上げたいと存じます。

本日は副会長不在での会議となってしまいますけれども、我々でしっかりと計画の審議を行ってまいりたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、事務局から本日の出席状況と配付資料の確認をお願いいたします。

○事務局（高橋企画係長）事務局の札幌市環境局循環型社会推進課の高橋でございます。

本日もよろしくお願いいたします。

ただいま、福士会長からお話ございましたが、桑原副会長のご逝去によりまして、本審議会の委員定数は12名となっております。

本日は、納谷委員、武藤委員、山本委員の3名から所用により欠席とのご連絡をいただいておりますが、12名中9名と過半数の委員にご出席いただいておりますので、札幌市廃棄物の減量及び処理に関する条例施行規則第5条第1項の規定に基づきまして、この会議が成立していることをご報告させていただきます。

続きまして、本日の資料を確認させていただきます。

本日、お手元に式次第、資料1の札幌市一般廃棄物処理基本計画「新スリムシティさっぽろ計画（案）」、資料2のA3判3枚の「新スリムシティさっぽろ計画（案）」の概要をご用意させていただいております。

いずれの資料もお手元にごございますでしょうか。

それでは、福士会長、議事の進行をよろしくお願いいたします。

○福士会長 それでは、資料の名前は札幌市一般廃棄物処理基本計画新スリムシティさっぽろ計画（案）になっていますが、議事では、次期札幌市一般廃棄物処理基本計画（案）になっていますので、そちらの名前で進めさせていただければと思います。

2. 議 事

○福士会長 それでは、議事の次期札幌市一般廃棄物処理基本計画（案）の報告に移らせていただきます。

本日が最後の本会議となります。次期計画の方向性につきましては、一昨年の12月に諮問を受けてから約1年半にわたり審議を行って、今年7月に答申としてまとめて、札幌市に手交いたしました。本日の資料としてお配りしている次期計画（案）は、答申の内容を踏まえて、札幌市で作成し、市役所内部での調整を終えたものとなっております。

それではまず、事務局から資料のご説明をお願いいたします。

○事務局（小林循環型社会推進課長） 循環型社会推進課長の小林でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次期計画案につきまして、お手元のA3判の概要版に基づきましてご説明いたします。

概要版の1枚目、「1 札幌市のごみ処理の現状」をご覧ください。

こちらにつきましては、これまでの審議会の中で整理している部分がほとんどですが、改めて要点をご説明します。

まず、左側の上段、①現計画「スリムシティさっぽろ計画」の進捗状況及び評価をご覧ください。

現計画のスリムシティさっぽろ計画は、平成20年度から平成29年度までの10年間を計画期間としまして、平成20年3月に策定され、平成26年3月に改定しております。

現計画におきましては、家庭ごみ有料化や分別区分変更など、新ごみルールにより廃棄ごみ量は大きく減少しました。

表は、計画の目標達成状況をまとめたもので、項目の上から3段目の家庭から出る生ごみ量は平成26年の改定時に新たに加えられたものですが、平成27年度に目標を達成し、その後もリバウンドしていないなど現計画におけるごみ減量はおおむね順調に進んでいるところでございます。

この点につきましては、審議委員の皆様からのご評価いただいたところでございます。

一方、課題となっている点についてですが、資料の右側をご覧ください。

上段の③家庭ごみの組成の中に2つの円グラフがございますが、これは、家庭から出る燃やせるごみ、燃やせないごみの組成を割合で示したものでございます。

この円グラフの中で赤色の線で囲まれた部分は、廃棄ごみの中に資源物が含まれていることを示しております。

それから、白色の線で囲まれた部分は、燃やせるごみでは食品ロス、燃やせないごみでは小型家電類を示しており、今後、特に分別、減量に向けて取り組んでいく必要があるものでございます。

また、その下の④家庭ごみの分別協力率のグラフは、各資源物がどれだけ正しく分別されているかを示したのですが、雑がみと容器包装プラスチックの数値が低下傾向にある状況でございます。

現状につきましては以上でございます。

めくっていただきまして、2枚目をご覧ください。

左側上段、紫色の囲みになりますが、「2 審議会からの答申」につきましてご説明します。

次期計画の方向性をご議論いただいている中で、天然資源の消費抑制に効果的な2R推進の観点から、資源物を含めてごみ排出量を削減していくことや、超高齢社会への対応、市民・事業者・行政のより一層の連携、大規模災害時に備えた廃棄物処理体制の整備についての課題が挙げられたところです。

なお、資料には記載がございませんが、リサイクルにつきましても更なる取組が必要との課題が挙げられておりますことを口頭でつけ加えさせていただきます。

このような課題を解決していくためにも、次期計画の方向性に関する基本的な考え方は、現計画をベースにしながら、2Rの推進と更なるリサイクルの取組推進、超高齢社会への対応、事業ごみの減量に向けた取組推進に重点的に取り組むべきというご意見をいただいたところです。

次に、左下、赤色の枠ですが、「3 次期計画のポイント」をご覧ください。

ここから、次期計画（案）の内容となります。

次期計画は、答申の内容を踏まえて策定しておりまして、ここでは、ポイントとなる部分を5つ挙げております。

1 つ目は、現計画をベースにしながら今後の世界や国の方向性、社会動向に応じて取組の追加や強化を行うということ、2 つ目は、2Rの取組を推進するため、資源物を含めた全体的ごみ排出量の削減目標を新たに設定するという、こちらについては、リサイクルを中心とする現在の計画から、少し考え方の中心の位置が変わった部分でございますので、A4判の計画（案）の49ページをご覧ください。

49ページにコラム11の3Rの優先順位とリサイクル率の関係とございますが、現在の計画の考え方は、ここに出ているモデルケースAでありまして、廃棄ごみ量を減らすことを目的にリサイクルを推進し、廃棄ごみから資源物にごみ量をシフトするものでございます。

次期計画の考え方は、その下にあるモデルケースBとなります。廃棄ごみ量の減量だけではなく、資源物を含めて、全体のごみ排出量を減らすことを重視するもので、これにより天然資源の消費量を減らしていくものでございます。

概要版に戻りまして、次期計画のポイントの3つ目でございますが、政令市の中で最も少ないごみ量を目指すということでございます。

これは、現在、札幌市のごみ排出量が政令市で4位でありまして、より高みを目指していくという考えから、高い目標を掲げるというものでございます。

次に、4 つ目は、高齢化や災害時の対応として、誰もが安心してごみ出しができる体制を目指すということ、5 つ目は、市民・事業者との連携による取組の推進を目指すということでございます。

以上のように次期計画では、分別区分や収集処理体制の変更は行わず、市民意識に訴えることや、ごみ減量に資するような民間部門の取組は積極的に取り入れ、また、市民に負

担をかけずに目標達成に向けて取り組んでまいります。

なお、目標達成に向けた考え方につきましては、計画（案）の44ページをご覧ください。

こちらに目標達成に向けてのイメージ図とありますが、次期計画では、生ごみや古着といった特定のごみ種にターゲットを絞って減量するもののほか、特定のごみ種に絞らないものもございます。

市民、事業者それぞれの生活様式や事業形態に合わせて各自で減量に取り組んでいただけるよう、市民、事業者の方々に働きかけていくことが重要と考えております。

それでは、概要版に戻ります。

2枚目の右側でございます。

緑色の枠の「4次期計画の体系」をご覧ください。

計画期間は、平成30年度から39年度までの10年間としております。

次に、基本目標ですが、「SAPPOROいちばん！減らそう100g～ごみのいちばん少ないまちへ みんなで3R～」としました。

答申では、基本目標には、市民や事業者の心に残るような取組意欲が湧く言葉を入れるべきとのご意見をいただいたところですが、本目標は、政令市最少のごみ量を目指すために100gという具体的な減量目標も入れつつ、市民、事業者の取組意欲が湧くようなわかりやすい言葉で表現しました。

次に、ごみ減量に向けた施策を行う際にバランスをとりながら考慮すべき視点として挙げている基本方針についてですが、現計画から変更しております。

まず、現計画で市民、事業者、行政の協働による取組を推進する方針として「社会」としていたものを、その意味をよりわかりやすくするために「協働」としました。

次に、費用対効果を考慮し、コストを最小限に抑える方針として、「経済」としていたものを、答申で全体のコストに配慮した予算配分の最適化と示された視点を踏まえまして、「効率」といたしました。

また、高齢化の進行や災害時の対応の観点から、新たに「安心」の視点を追加しました。

次に、ごみ量に関する目標についてですが、市民、事業者と目標を共有し、それぞれの役割でごみ減量に取り組む必要があることから、現計画の「ごみ量管理目標」という名称から、「目指せいちばん！スリム目標」へと変更し、5つの目標を設定しました。

まず、次期計画で新たに設定し、最も重要な目標と考えているのは、①ごみ排出量の減量目標です。

これは、家庭ごみと事業ごみ双方の廃棄ごみと資源物全てを合わせた量で、平成28年度比で6.8万トン以上の減量を目指します。

この目標は、1人1日当たりに換算しますと、100g以上の減量を行って、730g以下を目指すこととなります。

この目標数値の設定についてご説明します。

これまでの札幌市一般廃棄物処理基本計画の目標数値は、例えば、埋立処分場の残容量

や焼却施設の処理能力からの逆算などにより算出していたものでございますが、今回、ごみ排出量の減量目標につきましては、天然資源の消費抑制という観点から設定することといたしました。

この天然資源の消費抑制を観点とした場合、ごみ排出量がより少ないほど、望ましいこととなりますが、その反面、目標数値というものは、現状からかけ離れたものであっては成立しないこととなります。

そこで、札幌市の現状を考えますと、1人1日当たりのごみ排出量は、現計画の開始年度である平成20年度が政令市で15位であったものが、平成28年度には4位に位置しておりまして、大きく順位が向上しております。

また、現時点における政令市のトップランナーである横浜市の平成27年度の実績の735gまであと100gと、到達不可能ではない位置にあります。

この目標を達成しますと、横浜市の735gを下回りまして、札幌市が政令市最少のごみ量となることから、基本目標に掲げたごみの一番少ないまちとなります。

このほかの目標とした項目につきましては、現計画から引き続き設定するものでありますが、その数値につきましては、ごみ排出量6.8万トン減を基準に算出しており、それぞれ現計画より高い数値となっております。

なお、現計画でごみ量管理目標として掲げている焼却ごみ量の減量目標につきましては、清掃工場1か所の廃止を目標としていたため、その目標である清掃工場の廃止が実現していること、それから、市民1人当たりの焼却ごみ量が、現在は札幌市が政令市で最少となっていることなどから、次期計画では目標値としては設定しないこととしております。

次に、次期計画で新たに設定するモニター指標についてでございますが、これは、具体的に目標数値を設定するのではなく、グラフの傾きなどを分析することで、ごみ減量の取組の進捗状況や施策の改善の参考とするものでございまして、家庭から出る食品ロス量、燃やせるごみに含まれる容器包装プラスチックと紙類の量、リサイクル率の3つを設定してございます。

なお、③のリサイクル率につきましては、現計画でごみ量管理目標として掲げておりましたが、2Rの推進によりまして資源物の減量に成功した場合に数値が低下することもありますので、数値目標としては設定しないこととしましたが、リサイクルは引き続き重要な取組と考えておりますし、様々な施策も行っていくしますので、モニター指標として数値は把握してまいります。

最後に、各施策についてでございます。

次期計画では、市民と事業者が2Rと分別排出に取り組む環境をつくることや、ごみ出しから収集処理までを適正、円滑に行うことができる体制の確保が必要なため、6つの観点から施策を設定します。

詳しい内容につきましては、3枚目をご覧ください。

こちらの5の次期計画の主な取組では、施策1から6までのそれぞれについて主なもの

を記載しておりますが、答申の内容と関連した事業についてご説明します。

まず、答申において重点的に取り組むべき事項として示された食品ロスの削減は、次期計画で重点的に推進していくリデュースの取組となります。

左側の列、施策1の「2Rを推進するための仕組みづくり」の②家庭における食品ロス削減の促進、それから、真ん中の列の中段、施策3の「事業ごみの減量・リサイクルの取組促進」の③飲食店等と連携した食品ロス削減の推進として掲げており、家庭系、事業系双方について連携しながら削減に向けて取り組んでまいります。

次に、答申で札幌市が市民と事業者をつなぐコーディネーターを担う視点を入れるべきというご意見もいただきましたが、左側の列の下段、施策2の「分別・リサイクルの取組促進」の②集団資源回収の更なる促進におきまして、例えば、町内会に未加入の共同住宅の入居者が町内会の実施する集団資源回収を利用できるように、清掃事務所が町内会や共同住宅をコーディネートするという事業に取り入れさせていただきました。

次に、答申で課題として示されました超高齢社会への対応としては、真ん中の列の下段に施策4の「市民に対する支援と普及啓」発がありますが、右側の列の上段に移りまして、③要介護者等に対するごみ排出支援の実施において、さわやか収集の効率的な運用の検討と、ごみステーションの小規模化により高齢化の進行に対応してまいります。

次に、右側の列の中段、施策5の「持続可能な収集・処理体制の確立」の②民間リサイクルルート等の更なる活用に向けた調査研究では、廃棄物の更なるリサイクルを促進するため、民間事業者がビジネスとして実施しているリサイクルルートの更なる活用に向けた調査研究を行ってまいります。

最後に、右側の列の下段、施策6の「清掃事業の最適化と安全・安心な体制の構築」の②災害廃棄物処理計画の策定では、国の方針としても示されている災害時の廃棄物処理について、本計画とは別に個別計画を策定して対応していく予定でございます。

その他の事業につきましては、個別の説明は省略しますが、先ほども申し上げましたとおり、次期計画では、制度の変更などを行わずに、市民の高いごみ減量意識に訴えることや、民間活用といった、市民に負担をかけない方向で目標達成に向けて取り組んでまいります。

以上で説明を終わります。

○福士会長 どうもありがとうございました。

それでは、ただいまご説明いただいた次期札幌市一般廃棄物処理基本計画（案）の内容について、ご質問、ご意見がございましたらよろしくお願いいたします。

○石井委員 石井です。

計画（案）ということで、まず、ここに至るまでの過程を確認させてください。

1つは、上位の環境基本計画と並行して札幌市の一般廃棄物処理基本計画をつくったのですね。ほかのものは、既に下位の個別の計画があったものですから、それに倣いながら環境基本計画をつくっていったのですが、廃棄物の場合は並行してつくった経緯がありま

す。その辺のやりとりで、札幌市の環境基本計画の上位の計画とこの個別計画がどういったやりとりをしながら、今日に至ったのかというところを確認させていただければと思います。

○福士会長 上位の環境基本計画とこの計画の相互の調整をどうやられて、こういう結論になったのかということですね。

○事務局（小林循環型社会推進課長） 関係部分につきましては、環境基本計画を所管する環境計画課からそれぞれの段階で、こちらに照会といいますか協議がございますので、その都度調整しておりました。

○石井委員 それは当然のことだと思いますが、具体的に環境基本計画の側から廃棄物の計画では、こういうふうにしたほうがいいのか、あるいは、廃棄物のほうから環境基本計画のほうに、廃棄物としてはこういうことをやるから、環境基本計画にぜひともこういうことを書いてくれというような具体的なやりとりを聞いたかったのです。

○事務局（小林循環型社会推進課長） ごみの減量目標を設定するに当たっても、審議会からいただいていたSDGsの考え方を取り入れるとか、環境基本計画においてもそちらが重視されているということで、余りそごがあるという感じは受けてはおりませんでした。環境計画課から示されたものと、ほぼ同じような方向というふうに考えておりました。

○石井委員 私は環境基本計画に携わったからあえて言いますけれども、今後の話として、資源をできるだけ使わないような社会にするということが、この計画に反映されていると考えています。こちらでも議論してきたことですが、いわゆる大量リサイクルすればいいということではなく、資源ごみも含めた全体量をできるだけ減らしていこうということを環境基本計画でも言っていることすし、ここでも議論されていったことがうまく反映されてきたというのが今回1つ大きなことだと思います。

それから、今までの廃棄物処理計画は、札幌市のごみ処理のやり方をどうするのかというものでしたが、環境基本計画の理念は、ごみになったものだけではなく、いわゆる民間へ流れていく有価なものであったり、市民の協力によるリユースだったり、市民のフリーマーケットとか、そういったものも含めた統括したものが循環型社会の考え方ですので、そこと札幌市が処理をするごみというものの整合性をどうとっていくのかというのが一番難しいところです。その点についての私の解釈は、先ほど何回か出てきましたけれども、民間の協力を得ながら、そういったところを進めていくのだというところが、上位の環境基本計画とのつながりの中では強調すべき点だし、これからしっかりやっていかななくてはいけないところかと思っています。この審議会の中でも、こうした点を議論した中で上位計画と整合した計画となっていることを総括をされたほうがいいのではないかと考えたので、お聞きしました。

○福士会長 先ほどのご説明にありましたけれども、リサイクルから2Rですね。これは、資源を使わないという理念なので、そこは一緒なのだろうと思います。まさに、資源を有効に使う、天然資源を使わないということが基本になっていて、そういう計画だというこ

とです。リサイクルから2Rのほうに行っていて、これは国の計画とも整合しているということだと思います。

もう1つ、今回の計画で特徴的なことは、今までは行政で受けていたごみをターゲットにして、市としてやっていたと思うのです。例えば、集団資源回収量も、行政に接触してくるものを取り上げてやっていました。しかし、この計画では、民間のリユースショップなども活用していきましょうという考え方になっているので、今まで行政のほうで捉え切れなかった有価なものや、民間の廃棄物の流れのほうを調査研究して、それがうまく活性化するようなことも考えたというのが非常に新しいところだと思うのです。

こちらの計画の中には色々出てきているのですが、例えば、民間の拠点回収の回収量を見るという調査研究がありますし、施策5の②民間リサイクルルート等の更なる活用に向けた調査研究も書かれています。私の解釈だと、民間リサイクルの更なる活用に向けた調査研究ということで、こちらの計画（案）の中では、民間のごみの流れも検討していきますということになっているので、答申の考え方は受け入れてもらっているのではないかと思います。そういう意味では、環境基本計画に整合しているのではないかと思います。

○石井委員 私は、単に、計画の総括といいますか、計画の特徴はこういうものですねということを確認したかったのです。それが環境基本計画とちゃんとつながっていますねということを確認したかったのです。今、福士会長からお話があったとお리だと思います。

○河崎委員 全体として、答申の趣旨を受け入れてよくまとまっていると思います。

それで、中身をどうこう言うよりも、今後、計画が策定された以降の市民に対する理解を進めるに当たって、どういうことに重きを置かなければならないかということ考えたのです。

1つは、ごみをまず減らすことが優先だということで、これは審議会でも言われましたから当然ですが、それに力を入れる余りに、適正な資源化ということがなおざりにされてはいけないので、今後、こういう趣旨を説明する際には、資源化も含めた中身だということをよく浸透させていただきたいという感じがします。

もう1つは、細かいことで恐縮ですが、「SAPPO_R0いちばん！減らそう100g～ごみのいちばん少ないまちへ みんなで3R～」と、言葉の流れとしては非常にきれいでよろしいですね。恐らく、色々なところでこういう言葉を使うと思いますが、これを使う場合に、減らそう100gというもののイメージが具体的に湧くような啓発をしていただきたいと思うのです。

例えば、正しいかわからないけれども、茶碗の半分ぐらいが100gですよとか、要は、具体的に市民がわかるような言葉を踏まえて標語を出さなければいけないと思うのです。減らそう100gの数字ばかり踊っているのでは市民の理解が余り得られないのではないかと感じます。

もう1つは、モニター指標という言葉があります。勉強不足でこの言葉は余りわからなかったのですが、機械的に解釈すれば監視する指標ですね。本文の42ページに出て

いたので、意味はわかったのですが、どういうところでモニター指標が使われているのか、参考までに教えていただければありがたいと思います。

以上です。

○富士会長 どうもありがとうございます。

今の点はいかがですか。

○事務局（小林循環型社会推進課長） まず、資源化というものが決してなおざりにしていくものではなくて、資源化は徹底していくということです。この浸透ということに関しては、今後、我々が広報していく中でしっかり取り組んでまいりたいと考えています。同時に、広報の中で「減らそう100g」について、100gのイメージが湧くようにということですが、それでも、それも何か考えてみたいと思います。

モニター指標という言葉の例につきまして、国のほうでも使われているということを聞いたことがあるような気もしますが、イメージがしにくいでしょうか。

○富士会長 モニター指標というのは、工学部でよく使いますか。

○石井委員 国の例でいきますと、例えば、水質の基準で環境基準があります。これは目標となる数値があつて、それを守ることがゴールというものです。もう1つ、要監視基準というものがあります。これは数値を見ているだけなのです。要監視基準という数値はあるのだけれども、それに達したか、達しないかという評価をするわけではないのです。そして、何か問題があったら、その要監視基準がいつの間にか環境基準になることがあるのです。

要するに、札幌市はスリム目標が、これを絶対達成しようというものであるのに対し、モニター指標というのは、この数値を達成しなければいけないということはないのですが、それを見ることによって、来年、再来年はこういう施策をしたほうがもっといいのではありませんか、そういったものを評価するのに使おうというものです。先ほどの環境基準と同じで、もしかすると、次の計画ではモニター指標の一部が、スリム目標になるかもしれないというものと私は考えています。

○河崎委員 今おっしゃることでだいぶイメージは湧きました。

目標としてまだ整理する段階ではないから、状況を見ながら今後整理されたものが出るのだろうと理解してよろしいですね。

ただ、一般市民が見た場合にちょっと戸惑うのではないか、この説明だけでわかるかなという気がしたものですから、あえて発言させていただきました。

大体わかりました。

○事務局（小林循環型社会推進課長） わかりやすい説明を加えたいと思います。

○富士会長 確かに、説明はあるのですが、一読してもなかなかわかりにくいですね。

まず1つは、平成20年に計画をつくったときには、すごく広報にご苦労されて力を入れたのです。私の記憶が曖昧かもしれませんが、分別協力率というのは、平成21年

とか最初のころはすごく高いのです。そして、だんだんと下がってきているのは、最初にかなりの回数の説明会を開いてご苦労されて分別協力率が高くなっているのではないかという気がします。広報などにも力を入れる必要があるというご指摘だろうと思います。

後は、100gのイメージというのは、先ほど新スリムシティさっぽろ計画（案）の44ページは、確かにわかりにくいということがありますので、そのために、100gの内訳を説明しようとしたのだと思いますけれども、一見、我々が見てもすっとこないもので、市民に100gのイメージを持ってもらうというのは、少し工夫が必要かなと思います。こういう行動をとれば100gに貢献できますということなど、わかりやすくしないと、100gだけが何となく浮いてしまうところもあるのではないかと思います。

難しいかもしれませんが、具体的に市民の方に、こういう行動をとってもらえれば達成できるということがわかれば、わかりやすくなるかと思います。

ほかに何かございますか。

○遊佐委員 色々ありがとうございます。環境事務所としても非常にありがたいことだと思っております。

私どもの事務所もそうですが、見せ方とか、聞かせ方とか、読ませ方に非常に苦労しております。皆さんがおっしゃったように、100gのイメージというのは、やはり一番大事な鍵になると思っています。私が5年前に熊本市にいたときは、生ごみを20%減らそうといって、水分をぎゅっと絞る行動をするために、プロモーションビデオを流したり、ポスターを貼ったり、いろいろやっておりました。

私が、札幌市の広報で非常に印象に残っているのは、映画館で、冷蔵庫の中身を休日に整理しようというのを見たことです。やはり、自分の行動がイメージできるような表現をしてくれればありがたいと思っております。

広報という面で、今回、非常に印象を受けた部分もありましたので、今後ともよろしくお願いいたします。

○福士会長 どうもありがとうございました。

ほかに何かありませんか。

○石井委員 先ほどの44ページのところで、質問ではないのですが、100gのイメージに関連して、今までは、廃棄ごみといいますか、焼却されるごみと埋め立てされるごみと資源物のフェーダーを変えるような施策が主でしたね。今回は、全体を下げましょうという話です。この全体を下げる手段として2つあるということです。

まず、自らが出すごみを減らすというのが、1つですね。

もう1つは、これは正直に言わなければいけないのですが、民間ルートにリサイクルで出すことで、札幌市が処理するごみを減らすということです。

これまでも努力されている市民の方は、買い物をすればごみはついてくるので、これ以上はできない、という思いがあると思います。民間ルートに出せば、まだごみを減らすことはできるということを、正直に言わなければならないと思います。つまり、札幌市さん

が処理するごみ量を減らすということは、今までごみに出していたものでも、一度リユースショップに持っていったみませんかとか、そういう2つのやり方でマイナス100gを達成しましょうというわかりやすさがなければいけないと思います。ただ減らせ、減らせと言っても、減らす手段がもうないと言われたら、できないというふうになるのではないかと思います。その辺はいかがでしょうか。

○富士会長　そうですね。この辺はいかがですか。

○事務局（小林循環型社会推進課長）私たちは、今回、減量に向けてどんな考え方をしていくかという、それぞれの人にはそれぞれの生活様式があるわけで、時間帯も違えば、働き方も違います。そうすると、ごみを出すタイミングや方法も当然違うだろうということです。そのときに我々がやれることは何かといったら、なるべくたくさんの選択肢を用意して、その中で、できればよりリデュースに近いごみの排出方法を選んでいただくということです。

そのときに、2Rが一番いいのですけれども、2Rではなくてもリサイクルでも構いませんし、それぞれの人がそれぞれの生活様式に合った方法で、そのために私たちはごみを減らしてくださいと言うのではなくて、こういった選択肢がありますので、できる範囲でご協力くださいということになろうかと考えております。

この辺の話を庁内の者と話をする時に、よく事例に出すのが小型家電でございまして、小型家電を引き取ってもらうときに、まず、昔ながらの方法といいますか、電気屋さんをお願いして新しい物を買ったときに古い物を引き取ってもらうと、新しいもののセッティングから何から全部やっていってくれるわけです。そして、まさに置いてあったそこから古い電子レンジなどを持っていってくれるわけです。これは、非常にお金がかかりますが、一番楽です。

もう1つは、札幌市の大型ごみの収集があります。電子レンジだったら500円ぐらいかもしれないかもしれませんが、事前に電話して番号をもらって、コンビニに行って大型ごみのシールを買って、決められた日に玄関先に出すというところまではしなければなりません。でも、これは500円で済む話なのです。

また、例えば、マテックさんがやっているじゅんかんコンビニがあります。これは、自分で持っていかなければなりませんけれども、そうすれば無料で出せます。

さらに、ちょっと新しかったら、リユースショップまで運び込めば、ひょっとしたらお金になるかもしれないということがあります。

ごみを出すのならこんな色々な方法があります、といったものをワンセットで出すことで、それぞれの市民が自分に最も合った、そして無理のない方法でごみ出しをしていただき、それを積み重ねていくことで目標達成に向かっていけるのではないかと思います。そのための環境づくりをすることが行政の役割だろうと考えております。

○富士会長　私も忘れていたところがありましたが、そういう民間活用と言うとおかしいのですけれども、民間のほうに出すというのは、最初はかなり強調されていたのですが、

今、改めて重要性を認識しています。同じごみが出ても、それを札幌市に出さないで民間のルートで行ってもらえば、それは民間の力で資源化されるということです。これは非常にいいことです。まさに小型家電がそういうことだと思いますが、ほかに色々あるのではないかと思います。

そういう視点も非常に大事だと思いますので、民間のルートとあわせて、リユースショップの活性化も視野に入れつつ行政を展開していただけると非常にいいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○草野委員 草野です。

今のお話がすごく大事だと思って聞いていましたが、それは施策の5のところに位置づけられるということでしょうか。調査研究というふうに記載されていますが、次期計画の中でもっと推進していくということです。どの部分で民間でも排出方法がありますということをしてPRしていくのかを確認したいと思います。

○事務局（小林循環型社会推進課長） すみません。もう一度お願いします。

○草野委員 先ほどのお話は、今の民間リサイクルをどんどん活用していきましょうということだったと思うのですが、それは施策の中のどこに位置づけられているかと思って見ておりましたら、施策5の②のところが該当するかの確認です。

○事務局（小林循環型社会推進課長） 小型家電は、施策2の③にあります。

施策5の②の小型家電は、うまくいっている事例として出しているものです。これ以外にもそういったものがあればアンテナを張って探していきたいというところです。

○草野委員 わかりました。

恐らく入っていると思うので、変更が必要かというわけではないと思うのですが、調査研究というよりも、その後もまたいい事例があればどんどん活用して出していくという考え方ですね。

○事務局（小林循環型社会推進課長） そうです。

○福士会長 確かに、これは基本理念の部分でもあるので、具体的には施策2の③が小型家電に当たったり、施策5の②がそれに当たったりするのですが、理念の部分なので、忘れがちになるわけです。ですから、民間に協力していただくということを意識して取り組むことが必要かもしれません。かつ、大きく言うと産業の振興ということにもなりますので、そういう視点もどこかで忘れないような形になっていればいいかと思います。

○赤城委員 施策3の①にもからませたらいいのではないですか。

○福士会長 そうですね。民間のリサイクルルートの把握・活用ですね。

○赤城委員 今のことはとても大切だと思いますので、最初の計画策定に当たってのころでもいいのですが、総論の部分で1項起こして書いておいたほうが良いような気がします。

○福士会長 そうですね。最初は、リサイクルのほうの部会でしたかね。それが非常に強調されていて、札幌市の計画ですので、民間も頑張ってくださいと余り強調するのはどう

かという意見を言ったことがあります。しかし、非常に重要な視点ではあるので、どこかに忘れないように書いておく部分があればいいかもしれないですね。

○赤城委員 施策1の市民の発生・排出抑制行動の習慣化の促進の中に、2Rの部会でも情報の発信とか収集という話がたくさん出ていましたので、2Rの①のあたりに強調して書くのもいいと思います。

○事務局（三上環境事業部長） 環境事業部長の三上です。

先ほど石井委員がおっしゃったような議論も庁内の中ではさせていただきました。ただ、ごみ種によって、例えばリサイクルのきかないものについて2Rで取り組んでいきましょうといったときに、民間の事業者に出せばいい、札幌市の処理量は減る、それが札幌市としてのごみの少ないまちにつながるだろう、こういう露骨なことを出すことによって、リサイクルのきかないものについてどうやってごみの排出抑制を訴えかけていくのかということについては、市民の心に伝わらないと思うのです。

したがって、石井委員のおっしゃることはよくわかるのですが、ごみの中には、そうではないものもあるということです。さらには、先ほど申し上げたことと重なるかもしれないですけども、やはり、長く使えるものは長く使っていただくということです。物を大切にするという気持ちを市民にいかに定着していただくのが、この計画の本当の柱だと思うです。それがSDGsのつくる責任、使う責任にも挙げられていることだと思うのです。

したがって、民間に出せばいいということだと、市民には訴えかけられるところが限られるのではないのでしょうか。

○石井委員 私は、そこまで言ったつもりはございません。

私は、どちらかというと、民間ルートに流れたものも量としてはちゃんと押さえていくべきだし、それが市民の成果であるということを逆に申し上げたいです。ですから、別に民間に出せばいいなんてことは一言も言っているわけではなくて、先ほど小林課長が言ったように、色々な選択肢があるということで、僕はそれでいいと思うのです。

市民の皆さんの協力でこれだけちゃんと民間に回りリサイクルされました、結果、札幌市のごみはこれだけ減りました、それでいいではないですか。

それは、市民に対して、民間に出せばいいのではないかという発想ではないとは思いますが。そこだけは誤解していただきたくないと思いました。

○福士会長 私のほうが誤解して強調してしまいました。

確かに、石井委員が最初に言われていたのは、全体として、社会として資源を使わないということです。民間に流れようが、行政が引き受けようが、全体として小さくなって、資源を使わないという社会でなくてはいけないと思います。ただ、行政が全部を引き受けるという時代ではないと思いますので、協力してもらうところは協力してやっていくということだと思います。

○赤城委員 赤城です。

一つ一つにしてしまうと見えにくくなっているものが、こういう理念で、こういう社会を目指して今回はつくったのだというところが、今、札幌市の方に説明していただいて、とても納得しやすいものがあったにもかかわらず、この計画書の中ではそこが希薄になっているのが残念かと思います。個別のものになると、こうしなくてはいけないという具体策も見えてくるのですが、最初に、私たちがなぜそういうことをするのかというところをどこか明確にしておきたいと思いました。

それから、個人的には、横浜を抜いてというインセンティブの持ち方が、札幌市としては大切なことかもしれませんが、市民としてはぴんときませんでした。やはり、内発力に訴えて、どういう社会を目指して私たちはそうしているのだということで、1つの目標としてはそこにあるかもしれないけれども、横浜もさらに減量化を続けて、600gになるかもしれないし、この目標も10年掲げて100gでいいのかどうかもわからないのですけれども、目標の100gが大きくなり過ぎているような気がします。小手先のインセンティブにとらわれ過ぎると、市民の内発力を失っていくなという危機を感じました。

○福士会長 なるほど。その辺はどうでしょうか。

○事務局（小林循環型社会推進課長） その点が我々も議論しているところでございまして、トップになるといっているのは、1番になりたいからではないのです。先ほどの説明の中で申し上げましたとおり、今までのごみ処理計画の減量目標は、極論すれば、埋立処分場の残容量から逆算していくというやり方です。これだけのペースで使っていけば、後何年しかもたない、一方、新しい処理場はこの年にでき上がる、では、間に合わせるためにはこれだけの量にしなければならないという計算です。

ただ、今回は、一番最初に石井委員から聞かれたときに出なかったのですけれども、環境基本計画があった上で、天然資源の消費を抑制するという観点からごみを減らしていこうということです。繰り返しになりますけれども、そうした場合に、減らせば減らすほどいいのか。計画をつくるというのは、我々が向上していくことを目標としていくものでございます。向上していくことを目標とする計画をつくるときに、目標値をどこに置くかというのは大事です。今までであれば、例えば残容量なり何なりから逆算していくことができたが、今回は、減らせば減らすほどよろしい、極端に言えばゼロがよろしいということになりますので、そうした場合に、我々はどこに目標値を置くのがいいのかという議論があります。

そのときに、これはできるものでなければだめだろうと思いますし、実績のあるものでなければだめだろうと思います。そのときに、平成27年の実績値として横浜市がトップでその数値があったということで、それであれば我々もそこまで行くことができるだろうということでの目標値です。1番とか2番とかではありません。

100gということにつきましては、これは、わかりやすさが大事だろうということです。100gがひとり歩きと言われると困ってしまうのですが、これが85gといってもわけがわからないと思います。ちょうどたまたま100gぐらいだったものですから、切りのいいところで

100gとしたところでございます。100gだけ取り出してというわけではないというつもりでした。

以上でございます。

○富士会長 草野委員、どうぞ。

○草野委員 私の理解は、今の社会の状況やリサイクル技術、市民の関心度というものを総合的に判断して、最適化、スマートな状態を目指しましょうということが大前提になると思います。次期計画の体系の一番上にぼんやり見えるのはそこだと思うのです。

それを目指すときに一番わかりやすい数字が100gだったというふうに理解しているのですけれども、これで100gの根拠は何ですかということになると、また少し苦しくなってきます。このわかりやすいと根拠が行ったり来たりなのかなと思っているのですけれども、そういう理解で合っていますか。

○事務局（小林循環型社会推進課長） おっしゃるとおりです。

○草野委員 これは、苦しいですね。

○事務局（三上環境事業部長） 今のご意見のとおりで、100gを減らすことよりは、目標の中に書いてありますとおり、日本で一番きれいなまちを目指そうということです。札幌は、域外からどの程度の外需を獲得するかというまちづくりの基本の中で、札幌に訪れる観光客の方々が年間1700万人、そのうち海外からの観光客数は200万人を超えるわけですが、こういう方々の感想の中に、本当にきれいなまちであり、まちなかを歩いてもごみ一つ落ちていないというお声があります。こういうまちを実現できているのも、地域の方々、また、市民一人一人のごみを減らそう、また、ごみステーションをきれいにしていこうという取組の表れだと思うのです。また、ある先生は、ごみステーションがきれいな地域ほど、地域のコミュニティーが進んでいるということをおっしゃっていますけれども、まさに、きれいなまちイコール地域コミュニティーが生き生きとしている、あるいは、域際収支の中では外需を獲得できるまちにつながっているというようなことを目指していく一助としてのごみの施策があるのだという認識です。ですから、100gというよりは、きれいなまちを目指すには100gということが頭に浮かんでいただくような広報をこれから市民との対話の中で我々がお伝えし、市民からまたご意見をいただきながら、ごみの減量施策につなげていくということがとても大切だと思うのです。

そういう意味合いでの100gというふうにご認識いただければと思います。河崎委員から、100gはどういう例えだというお話がありましたが、私は、職員に、コンビニのおにぎり1つ100gなのだよと言ったら、コンビニのおにぎりを捨てられてはたまらないと言われて、例えとしては適当ではないという話がありました。今後、100gについてどのような形で表現するのかについては、先ほど課長からも検討するという話をさせていただきましたけれども、もっとわかりやすい形でイメージづくりできるようにしていきたいと思っています。

以上です。

○富士会長 どうもありがとうございました。

環境基本計画のほうでは、環境首都・札幌を宣言していて、廃棄物分野では、循環型社会の構築を掲げています。

前の計画では、環境低負荷型資源循環社会という目標を掲げていましたが、この表現はかなり難しいです。それに対して、答申のほうで、わかりやすく、市民が行動しやすいような、やる気の出るような基本目標にしたかどうかということになっています。そういう意味では、この目標はそれに沿っていると私自身は思ったのです。

少なくとも、循環型社会の構築よりは減らそう100gということで循環型社会を目指すという発想でいったほうが行動しやすいと思いますし、やる気も出るのかなと思います。もし達成できたら1番になったという喜びもあるでしょうから、これはいいのではないかと思います。

○越智委員 私もそう思います。

ごみのないきれいなまちにしようと先ほどおっしゃいましたが、それが一番響くのではないかと思います。

まず、札幌を、日本ではなくて、世界で一番きれいなまちにしようということがあれば、それに対してみんなが動き出す、それが一番いいように感じるのです。循環型云々といっても私たちがさえわからないのです。一般のおじいちゃん、おばあちゃん、子どもたちは、札幌を世界で一番きれいなまちにするのだよということであれば、学校、幼稚園、いろいろなところでまとめてやっていこうという気になるのではないかと思います。100gはわかりませんが、そういうことを掲げたほうがわかりやすいのではないかと思います。

○福士会長 そうですね。

支持のお言葉ということで受け取りました。

○草野委員 恐らく、共感をどうつくるのかという議論だと思うのです。恐らく、きれいという言葉を使ったら、僕も共感を呼びやすいと思っています。

ただ、もう1つ、短い文章の中で伝えるときに、きれいにしましょうということと、減量しましょうということを一言で言ったときに、ストーリーがぶつっと切れてしまうように感じる場所が難しいポイントだと思います。ただ、きれいにするためには、そもそも発生を抑えていって、その後に、飛び散ったりというところを予防できると。これは、かなり難しい話をしていると思うのですけれども、そこがわかるほうがぐっとくると思います。一般の方としてはきれいなほうが共感しやすいというのは、そのほうが近いという感じがします。

○越智委員 単純というのが一番いいかと思いました。

○福士会長 ほかにございませんか。

○永井委員 皆様、今まで本当にありがとうございました。

この資料が届きまして、家で見させていただきました。うちには、小学生、中学生、高校生の子どもたちがいるのですけれども、その中で4年生の娘と一緒に見させていただきました。子どもは、字が一杯だねということで、つまらなさそうにしていたのですが、特に

冊子の50ページ、51ページに、具体的にこういうことをしたら、これぐらいの減量が考えられるというページが非常にわかりやすかったようです。これは、家でもうやっていることだねということで、その行動がごみを減らすことにつながっているのだというふうにつながったのは非常にわかりやすかったと思います。

小学校、中学校、高校ということで、その中でごみは分別して回収しているわけで、小さな社会だなと感じることが多々あります。子どもたちや先生、PTAも含めて、やはり、その中で体感して、学校をきれいに、地域をきれいにというのは小さなときから根づいていることなのだと思います。現在、私が子育て世代だからそう思うのかもしれないのですが、その子育て世代が終わった後の世代になったときに自分はこの意識を持ち続けていけるのかと考えたときに、それは町内会活動に参加してのクリーン活動と移行していけると思いました。

ともかく、きれいにしていきたいという気持ちは、市民の皆さんに根づいていると思いますし、気持ちは1つだと思いますので、今後も一市民として協力していけたらなと思っています。

○福士会長 どうもありがとうございました。

こういう行政計画を子どもにも見ていただけるとするのは非常にいいことかと思います。基本計画ではありますが、具体的に書いてあるところが非常にわかりやすいと思いました。

ほかにいかがでしょうか。

○石井委員 100gの中身は事業系一般廃棄物も入った100gだと思うのです。先ほど家庭でできることについて話がありました。一市民も事業者でもあるわけですから、市民の皆さんへの周知ということが事業ごみの周知につながるっていいのだと思うのですけれども、審議会の中では、京都の事例も踏まえて、義務化というかなり強い言葉まで議論した中で、今の状態に落ちついていることを考えると、ごみを出さないでやりましょうとか、できるだけリユースしてくださいという事業者への周知を、家庭ごみでは年代ごとに若い人たちにこういう情報を周知したらいいのではないかというのは随分話し合ったと思うのですが、いわゆる事業者を含めた周知は、これから工夫してやっていただければと思います。我々も何かアイデアがあったら出さなければいけないのでしょうか、そういうものが大事だと思いました。

○福士会長 そうですね。私の感覚では、事業者のほうも減らせる余地があるのではないかと考えています。それは、いくつかの産業廃棄物の受け入れをなくするとか、いろいろな措置を考えられているようですが、そちらも取り組めば100gの可能性はあるのではないかという気はしています。

○事務局（三上環境事業部長） 100gというのは、事業系のごみが入っています。お客さんがいない事業所もございますけれども、札幌の場合は、3次産業のまちで、市民がお客さんとして、その事業所でごみを出す場面も多々あるだろうと思います。ですから、この100gの中に占める市民がごみを出している割合というのは、例えば、居酒屋、飲食店、遊

興施設などでの飲食に伴うごみも事業系のごみの中に当然入ってきますので、やはり、市民がごみの減量、ごみの排出抑制をしましょうという意識がなければ事業系のごみも少なくならないだろうなという議論に落ちついたのです。

もう1つは、特に3次産業のまちで飲食事業者から排出される生ごみも相当ある中で、飲食事業者が生ごみを減らしてくださいといっても、お客さんに対して適量というものがどれぐらいかという議論もあるでしょうし、これは市民から適量を出してくださいという、消費者意識を持っていただく中で取り組んでいかないと、事業者も取り組みにくいだろうということです。これは、他都市でも同じような認識で、ちょっと立ち往生しているということも伺っています。そういう意味での消費者教育についても力を入れていきたいと思います。○福士会長 そうですね。事業者は自分で廃棄物を処理しなければいけないというのが原則ですので、札幌市としては、事業者が廃棄物処理の中核にあって、いわば外からお願いしていくというスタンスになりますので、うまくインセンティブをつくっていくという形でなければなかなか難しいと思います。それでも、いろいろやられているので、それを進めていただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○福士会長 それでは、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○福士会長 本日の審議はここまでとさせていただきますと思います。

次期計画は来年3月策定の予定となっておりますけれども、今後の進め方等について事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（高橋企画係長） ご審議ありがとうございました。

今後のスケジュールにつきましては、今月の下旬から、パブリックコメント、また、キッズコメントを実施する予定となっております。

委員の皆様には資料を後ほど郵送させていただきたいと思いますので、ぜひお子様のご意見等もいただければと思っております。

また、その際に、本日、食品ロス削減のお話が多々出てまいりましたが、今、札幌市におきまして、冷蔵庫お片づけの件と2510（ニコッと）スマイル、宴会での食べ切りをしましょうという三角ポップをつくっております。そちらも資料と一緒に同封させていただきたいと思います。これから、忘年会、新年会等で宴会が続くかと思っておりますので、話のネタにお使いいただければと思います。

話を戻しますけれども、パブリックコメントに関しましては、1月下旬までを締め切り期間として、2月には、寄せられたご意見に対する市の考え方などを市のホームページで公開するとともに、必要に応じて計画案の修正も行なってまいります。その後、3月に策定、公表というスケジュールとなっております。

なお、本日が最後の本会議となりますので、ここで、環境事業部長の三上より一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

○三上環境事業部長 皆様、本日は、本当に貴重なご意見をいろいろいただきまして、心より感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

また、本会議は、平成27年よりスタートして今回で10回目を迎えました。そのほかにグループ会議が計6回、起草委員会が計2回ということで、本当にご多忙の中、この計画の策定に向けまして真剣なご議論をいただくとともに、私ども行政ではなかなかわからないような、普段は把握できないような観点から、大変多くの貴重なご意見をいただきましたことにつきましても、御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

おかげさまで、本当にすばらしい答申をいただきました。この答申をもとに、ようやく本日、計画策定までもう一息というところに来たわけでございますけれども、私どもといたしましては、皆様から頂戴した様々なご意見を今後ともきちんと生きるように、そして、とにかく行政計画というのはつくって終わりみたいなものも結構あるのですけれども、この計画につきましては、今日が本当にスタートという認識でおりまして、来年、計画が本格的にスタートする4月からは、私どもも市民の方々にきちんと働きかけをしながら、行政としてもやるべきことをして、きちんとした計画の進行管理をしていきたいと思っておりますので、引き続きお力添えをよろしく願いしたいと思っております。

結びになりますが、皆様におかれましては、ご健勝、そして、ますますのご活躍をご祈念申し上げまして、さらに、次期スリムシティさっぽろ計画の応援団として今後ともお力添えをお願いしたいということもあわせてお願いさせていただきまして、簡単なご挨拶とさせていただきます。

今日は、本当にありがとうございました。

○福士会長 どうもありがとうございました。

私からも委員の皆様には厚くお礼を申し上げたいと思います。

これまで、様々なご意見をいただくとともに、円滑な議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

特に、最初のころは、議論の方向性を定めるのが難しくて非常に悩んだところもありましたが、皆様から貴重な意見をいただくことによって答申の完成につながったと考えております。

また、次期の札幌市一般廃棄物処理基本計画（案）につきましても、答申の基本的内容を反映したものをご作成いただいたと評価させていただいております。これにつきましても、改めてお礼を申し上げたいと思います。

3. 閉 会

○福士会長 それでは、これで、第8期札幌市廃棄物減量等推進審議会の第10回本会議を終了させていただきます。

2年間、どうもありがとうございました。

以 上